IP ルーティング：ODR コンフィギュレーション ガイド

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries.To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks.Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners.The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

最初にお読みください 1

オンデマンド ルーティングの設定 3

機能情報の確認 3

オンデマンド ルーティングの設定の前提条件 4

オンデマンド ルーティングの設定の制約事項 4

オンデマンド ルーティングに関する情報 4

オンデマンド ルーティングの利点 4

スタブ ネットワーク 4

オンデマンド ルーティングの概要 5

オンデマンド ルーティングの設定方法 6

ODR の有効化 6

ODR スタブ ルーティング情報の伝搬の無効化 6

指定したインターフェイスでの ODR スタブ ルーティング情報の伝搬の無効化 7

ODR 情報のフィルタリング 8

ハブのダイナミック ルーティング プロトコルへの ODR 情報の再配布 10

Cisco Discovery Protocol または ODR タイマーの再設定 10

dialer map 文を使用して Cisco Discovery Protocol ブロードキャスト パケットを転送 12

オンデマンド ルーティングの設定例 13

ODR の有効化と ODR 情報のフィルタリングの例 13

指定したインターフェイスでの ODR の無効化の例 14

その他の参考資料 14

オンデマンド ルーティングの設定に関する機能情報 15

第 1 章

最初にお読みください

Cisco IOS XE 16 に関する重要な情報

Cisco IOS XE Release 3.7.0E（Catalyst スイッチ用）および Cisco IOS XE Release 3.17S（Access および Edge ルーティング用）より、この 2 つのリリースは集約されたリリース Cisco IOS XE 16 の 1 つのバージョンに進化（マージ）します。1 つのリリースでスイッチおよびルーティング ポートフォリオ内の Access や Edge 製品を幅広くカバーします。

（注） テクノロジーの設定ガイドの機能情報の表には、機能が導入された時期についても記載されています。その機能が他のプラットフォームでサポートされた時期については、記載されている場合とされていない場合があります。特定の機能がお使いのプラットフォームでサポートされているかどうかを確認するには、該当製品のランディング ページに掲載されているテクノロジー コンフィギュレーション ガイドをご覧ください。テクノロジー コンフィギュレーション ガイドがご使用の製品のランディング ページに表示された場合は、その機能がそのプラットフォームでサポートされていることを意味します。

第 2 章

オンデマンド ルーティングの設定

オンデマンド ルーティング機能により、スタブ サイトの IP ルーティングを最小限のコストで利用できます。一般的なダイナミック ルーティング プロトコルのコストはかからず、スタティック ルーティングの設定や管理の負担もありません。

- 機能情報の確認，3 ページ
- オンデマンド ルーティングの設定の前提条件，4 ページ
- オンデマンド ルーティングの設定の制約事項，4 ページ
- オンデマンド ルーティングに関する情報，4 ページ
- オンデマンド ルーティングの設定方法，6 ページ
- オンデマンド ルーティングの設定例，13 ページ
- その他の参考資料，14 ページ
- オンデマンド ルーティングの設定に関する機能情報，15 ページ

機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、Bug Search Tool およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

オンデマンド ルーティングの設定の前提条件

Cisco Discovery Protocol が有効になっている必要があります。

オンデマンド ルーティングの設定の制約事項

IP ルーティング プロトコルはスタブ ルータには設定できません。

オンデマンド ルーティングに関する情報

オンデマンド ルーティングの利点

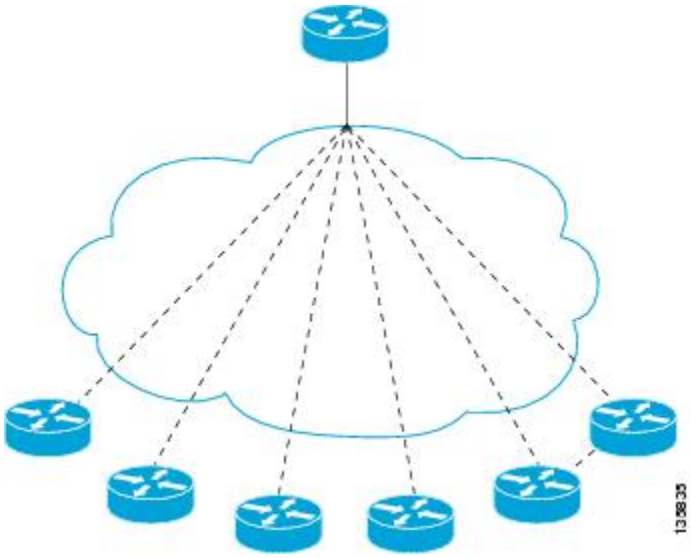
ここでは、オンデマンド ルーティング（ODR）を設定する方法について説明します。ODR 機能により、スタブサイトのIPルーティングを最小限のコストで利用できます。一般的なダイナミック ルーティング プロトコルのコストはかからず、スタティック ルーティングの設定や管理の負担もありません。

スタブ ネットワーク

ハブアンドスポーク ネットワーク トポロジでは、スタブ ルータは次の図のようにスポーク ルータとみなされる場合があります。このネットワーク トポロジでは、スポークが隣接するルータはハブ ルータのみです。このようなネットワーク トポロジでは、このトポロジを表すために必要な IP ルーティング情報は非常に簡単です。これらのスタブ ルータは通常、ハブ ルータへの WAN 接続が可能であり、少数の LAN ネットワーク セグメント（スタブ ネットワーク）がスタブ ルータに直接接続されています。これらのスタブ ネットワークはエンド システムとスタブ ルータのみ

で構成される場合があるため、スタブ ルータがダイナミック IP ルーティング情報を学習する必要はありません。

図 *1*：ハブアンドスポーク ネットワーク トポロジの例



オンデマンド ルーティングの概要

ODR を使用すると、IP スタブ ネットワークを簡単にインストールできます。このネットワークでは、ハブはスタブ ネットワークへのルートを動的に維持します。このインストールには、スタブでの IP ルーティング プロトコルの設定は必要ありません。ODR の観点から見ると、IP ルーティング プロトコルが設定されていない場合、ルーターはスタブであると見なされます。

ODR 機能をサポートするスタブ ルータは、直接接続されたすべてのインターフェイスで設定されている IP ネットワークに対応する IP プレフィックスをアドバタイズします。インターフェイスに複数の論理 IP ネットワークが設定されている場合、プライマリ IP ネットワークだけが ODR 経由でアドバタイズされます。ODR は IP ネットワーク番号だけでなく IP プレフィックスもアドバタイズするため、ODR は可変長サブネット マスク（VLSM）の情報を伝送できます。

ODR がハブ ルータで有効になると、ハブ ルータは IP 転送テーブルでスタブ ネットワーク ルータのインストールを開始します。また、設定されたダイナミック IP ルーティング プロトコルにこれらのルートを再配布するようハブ ルータを設定することもできます。

ODR は Cisco Discovery Protocol を使用して、ハブとスタブ ルータ間で最小限のルーティング情報を伝達します。スタブ ルータはハブ ルータに IP プレフィクスを送信します。ハブ ルータがスタブ ルータにデフォルトのルート情報を送信するため、スタブ ルータごとにデフォルト ルートを設定する必要はありません。

オンデマンド ルーティングの設定方法

ODR の有効化

ODR がハブ ルータで有効になると、ハブ ルータは IP 転送テーブルでスタブ ネットワーク ルータのインストールを開始します。また、設定されたダイナミック IP ルーティング プロトコルにこれらのルートを再配布するようハブ ルータを設定することもできます。

ハブ ルータで ODR を有効にするには、このタスクで次の手順を実行します。

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configureterminal**
3. **routerodr**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**routerodr** 例： `Router(config)# router odr`	Cisco ルータで ODR を有効にし、ルータをルータ コンフィギュレーション モードに設定します。

ODR スタブ ルーティング情報の伝搬の無効化

ODR は Cisco Discovery Protocol を使用して、ハブとスタブ ルータ間で最小限のルーティング情報を伝達します。これにより、スタブ ルータは IP プレフィックスをハブ ルータに送信できます。

CDP を無効にして ODR スタブ ルーティング情報の伝搬を無効にするには、このタスクの手順を実行します。

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configureterminal**
3. **nocdprun**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**nocdprun** 例： `Router(config)# no cdp run`	Cisco Discovery Protocol を無効にします。

指定したインターフェイスでの ODR スタブ ルーティング情報の伝搬の無効化

ODR 機能をサポートするスタブ ルータは、直接接続されたすべてのインターフェイスで設定されている IP ネットワークに対応する IP プレフィックスをアドバタイズします。指定したインターフェイスの ODR スタブ ルーティング情報の伝搬を無効にするには、このタスクの手順を実行します。

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configureterminal**
3. **interface***typenumber*
4. **no cdp enable**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**interface***typenumber* 例： `Router(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0`	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	**no cdp enable** 例： `Router(config-if)# no cdp enable`	インターフェイス上で Cisco Discovery Protocol をディセーブルにします。

ODR 情報のフィルタリング

ハブ ルータは IP ルーティング テーブルに ODR ルートを入力しようと試行します。ODR ルートはスタブ ルータから動的に学習されます。これらのルートに対する IP ネクスト ホップは、Cisco Discovery Protocol によりアドバタイズされた隣接ルータの IP アドレスです。IP フィルタリングを使用すると、ODR により動的に学習することをハブ ルータが許可するネットワーク プレフィックスを限定できます。

この例では、ACL は、次のクラス A ネットワーク プレフィクスをフィルタリングします。

```
access-list 101 permit 10.48.0.3
```

```
access-list 101 deny 10.48.0.0  0.0.255.255
access-list 101 permit 10.0.0.0  0.255.255.255
interface gigabitethernet 0/0/0
 ip access-group 2 in
```

ODR 情報をフィルタリングするには、このタスクで次の手順を実行します。

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configure terminal**
3. **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**]
4. **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**]
5. **access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**]
6. router odr
7. **distribute-list** [[*access-list-number* | *name*] | [**route-map** *map-tag*]] **in** [*interface-type* | *interface-number*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configure terminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**] 例： `Router(config)# access-list 101 permit 10.48.0.3`	アクセス リスト 101 は IP アドレス 10.48.0.3 を許可します。
ステップ 4	**access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**] 例： `Router(config)# access-list 101 deny 10.48.0.0 0.0.255.255`	アクセス リスト 101 は IP アドレス 10.48.0.0 0.0.255.255 を拒否します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	**access-list** *access-list-number* {**deny** | **permit**} *source* [*source-wildcard*] [**log**] 例： `Router(config)# access-list 101 permit 10.0.0.0 0.255.255.255`	アクセス リスト 101 は IP アドレス 10.0.0.0 0.255.255.255 を許可します。
ステップ 6	router odr 例： `Router(config)# router odr`	ODR をイネーブルにし、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	**distribute-list** [[*access-list-number* | *name*] | [**route-map** *map-tag*]] **in** [*interface-type* | *interface-number*] 例： `Router(config-router)# distribute-list 101 in`	ハブ ルータの ODR 情報をフィルタリングします。

ハブのダイナミック ルーティング プロトコルへの ODR 情報の再配布

ODR 情報をハブのダイナミック ルーティング プロトコルに再配布するために必要な正確なコマンド シンタックスは、ODR の再配布先のルーティング プロトコルによって異なります。詳細については、「Configuring IP Routing Protocol-Independent Features」モジュールの「Redistributing Routing Information」セクションを参照してください。

Cisco Discovery Protocol または ODR タイマーの再設定

デフォルトでは、Cisco Discovery Protocol は 60 秒ごとに更新プログラムを送信しています。この更新間隔は、ネットワークのハブ ルータ側でIPルートの迅速な再コンバージェンスを提供するために十分な頻度ではない可能性があります。スタブがモデム回線などの非同期インターフェイスを経由して複数のハブ ルータのいずれかに接続する場合、より高速な再コンバージェンス速度が必要となることがあります。

ODR では、IP プレフィックス情報を含む定期的な Cisco Discovery Protocol 更新プログラムを受信することが想定されています。ルーティング テーブルにインストールされたルートの更新プログラムを ODR が受信しなくなると、これらの ODR ルートは、まず無効とマークされ、最終的にはルーティング テーブルから削除されます。（デフォルトでは、ODR ルートは 180 秒後に無効とマークされ、240 秒後にルーティング テーブルから削除されます）これらのデフォルト設定は、デフォルトの Cisco Discovery Protocol 更新間隔に基づいています。Cisco Discovery Protocol または ODR タイマーに対する設定の変更は、双方に対する変更により反映する必要があります。

Cisco Discovery Protocol または ODR タイマーを再設定するには、このタスクの手順を実行します。

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configureterminal**
3. **cdptimer***seconds*
4. router odr
5. **timersbasic***updateinvalidholddownflushsleeptime*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**cdptimer***seconds* 例： `Router(config)# cdp timer 80`	Cisco IOS XE ソフトウェアが Cisco Discovery Protocol 更新プログラムを送信する頻度を指定します。
ステップ 4	router odr 例： `Router(config)# router odr`	ODR をイネーブルにし、ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	**timersbasic***updateinvalidholddownflushsleeptime* 例： `Router(config-router)# timers basic 5 15 15 30`	ODR ネットワーク タイマーを調整します。

dialer map 文を使用して Cisco Discovery Protocol ブロードキャスト パケットを転送

ダイヤラ マッピングを指定するインターフェイスでは、Cisco Discovery Protocol パケットは、IP プロトコルに適したダイヤラ マップ設定文を使用します。Cisco Discovery Protocol パケットは常にブロードキャスト パケットであるため、これらの dialer map 文はブロードキャスト パケットを処理する必要があります。この処理は、通常は **dialer map** コマンドに **broadcast** キーワードを設定して実行します。インターフェイス コンフィギュレーション モード で **dialer string** コマンドを使用することもできます。

ダイヤルオンデマンド（DDR）ルーティング インターフェイスでは、一部のタイプのパケットが対象として分類されます。これらの対象パケットにより、DDR 接続が確立されたり、DDR インターフェイスのアイドルタイマーがリセットされる場合があります。DDR 分類では、Cisco Discovery Protocol パケットは非対象と見なされます。この分類が発生するのは、IP パケットが対象として分類される IP 用の dialer map 文を Cisco Discovery Protocol が使用している場合です。

次のタスクでは、Cisco Discovery Protocol ブロードキャスト パケットを転送するために dialer map 文を使用する方法について説明します。

または

dialerstring*dial-string*[**:** *isdn-subaddress*]

手順の概要

1. イネーブル化
2. **configureterminal**
3. **interface***typenumber*
4. 次のいずれかを実行します。
   - **dialermap***protocol-keywordprotocol-next-hop-address* [**broadcast** | **class** *dialer-map-class-name* | **modem-script** *modem-regular-expression* | **vrf** *vrf-name* | **name** *host-name* | **spc** | **speed 56** | **speed 64** | **system-script** *system-regular-expression* | *dial-string*[**:** *isdn-subaddress*]]
   -
   -
   - **dialerstring***dial-string*[**:** *isdn-subaddress*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	イネーブル化 例： `Router> enable`	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	**configureterminal** 例： `Router# configure terminal`	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	**interface***typenumber* 例： `Router(config)# interface async 1/0/0`	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。 • **dialermap***protocol-keywordprotocol-next-hop-address* [**broadcast** | **class** *dialer-map-class-name* | **modem-script** *modem-regular-expression* | **vrf** *vrf-name* | **name** *host-name* | **spc** | **speed 56** | **speed 64** | **system-script** *system-regular-expression* | *dial-string*[**:** *isdn-subaddress*]] • • • **dialerstring***dial-string*[**:** *isdn-subaddress*] 例： `Router(config)# dialer map ip 172.19.2.5 speed 56`	複数のサイトに発呼したり、複数のサイトから呼を受信するように非同期インターフェイスを設定します。 単一のサイトに発呼するインターフェイスに対して呼び出す文字列（電話番号）を指定します。

オンデマンド ルーティングの設定例

ODR の有効化と ODR 情報のフィルタリングの例

次の例は、Cisco ルータで ODR を有効にし、ODR 情報のフィルタリングを有効にする方法を示しています。この ODR 情報のフィルタリングの設定例では、ハブ ルータはクラス C ネットワーク 192.168.1.0 に関する IP プレフィックス（または、このネットワークのサブセット）のアドバタイズメントのみを受け入れます。

```
Router(config)# access-list 101 permit ip host 10.0.0.1 192.168.1.0 0.0.0.255

Router(config)# access-list 101 permit ip 10.0.10.2 255.0.0.0 192.168.2.0 0.0.0.255
Router(config)# router odr
```

```
Router(config-router)# distribute-list 101 in
Router(config-router)# end
```

指定したインターフェイスでの ODR の無効化の例

次の例は、インターフェイスの ODR を無効にする方法を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0

Router(config-if)# no cdp enable
```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco Discovery Protocol の機能	『*Cisco IOS XE Network Management Configuration Guide, Release 2*』の「Using Cisco Discovery Protocol」の章
ODR コマンド	『*Cisco IOS IP Routing: ODR Command Reference*』の「On-Demand Routing Commands」の章
『Cisco IOS Master Command List, All Releases』	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』

標準

規格	Title
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	--

MIB

MIB	MIB のリンク
この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

RFC

RFC	Title
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	--

シスコのテクニカル サポート

説明	Link
★枠で囲まれた Technical Assistance の場合★右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

オンデマンド ルーティングの設定に関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコ ソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 *1*：オンデマンド ルーティングの設定に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
On-Demand Routing：オンデマンド ルーティング	10.0 12.2(1) 12.2(2)T 15.3(1)S	オンデマンド ルーティング（ODR）機能により、スタブサイトの IP ルーティングを最小限のオーバーヘッドで利用できます。

索 引

C

cdp enable コマンド 7
CDP（Cisco Discovery Protocol） 10, 12
　IP ルートの再コンバージェンス 10
　ダイヤラ マッピング、使用 12

D

DDR（ダイヤルオンデマンドルーティング）、CDP パケット 12
distribute-list in コマンド 8
distribute-list out コマンド 8

O

ODR（オンデマンド ルーティング） 5, 8, 10
　IP ルーティング テーブルに入力するルート 8
　イネーブル化 5
　デフォルト ルート 5
　再配布 10

R

router odr コマンド 6

T

timers basic コマンド 10

V

VLSM（可変長サブネット マスク） 5
　ODR サポート 5

す

スタブ ルーティング 4
　ODR 4
　　定義 4

た

ダイヤラ マッピングおよび CDP パケット 12

は

ハブ ルータ 4, 8
　ODR 環境 4